

国語科（国語総合）学習指導案（例）

日 時	平成〇年〇月〇日（〇） 第〇校時
学年・組	〇〇科 第〇学年〇組（男子〇名、女子〇名）
教科書	「国語総合」（〇〇出版）
指導者	〇〇高等学校 教諭 〇〇〇〇

1 単元名 唐詩（「春暁」「送元二使安西」「涼州詞」「静夜思」）

2 単元の目標

- （１）文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わおうとする。（関心・意欲・態度）
（２）文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わう。（読む能力）
（３）訓読のきまりなどを理解する。（知識・理解）

3 単元の指導観

（１）生徒の実態

漢文においては、１学期に基本事項を学んで以降、故事成語（２編）、寓話（２編）、唐詩（４首）と読み進めてきた。現在（３学期）、生徒は訓読の基本はおおむね理解している。使用している教科書に語注が丁寧に付けられているせいか、自ら漢和辞典を使って語句の意味を調べる生徒は少なく、大半の生徒は、教科書の語注を見るだけで満足してしまっている。学習態度は比較的良好であるが、主体的に学ぼうとする姿勢が不足している。

（２）教材観及び指導の方針

唐詩は比較的平易であり、語句を手がかりにして描かれた情景や心情を味わわせる教材として適している。

上記（１）の実態を鑑み、授業では、生徒に漢和辞典を使わせ、語句を手がかりにして主体的に詩を味わわせる学習活動を取り入れていく。

4 単元の評価規準

関心・意欲・態度	読む能力	知識・理解
①詩に描かれた情景や心情を、文や文章、語句などから離れないようにして読み、詩に表現された内容を考える手がかりとしようとしている。	①詩に描かれた情景や心情を、文や文章、語句などから離れないようにして読み、詩に表現された内容を考える手がかりとしている。	①漢詩を読むことに役立つ訓読のきまりや語句、漢詩のきまりを理解している。

5 単元の目標を実現するために取り入れる言語活動

詩に描かれた情景や心情をグループで話し合い、クラス全体に発表する。

6 単元の指導計画と評価計画

次	時	学 習 活 動	評価規準との関連	評価方法
1	1	・ 4 首の詩を、追いかけて読みや斉読を繰り返しながら読む。 ・ 詩の印象を表す一語をそれぞれ考え、ノートに書く。 ・ 詩の印象を表す一語について、周囲の生徒と意見交換をする。 （ペア→クラス全体） ・ 自分が一番気に入った詩を選ぶ。		
2	2 （本時）	・ 前時で各自があげた「一番気に入った詩」をもとに、生徒を 8 グループに分けて展開する。グループごとに 1 首を担当させる。2 グループに同じ詩を担当させる。 ・ 担当する詩について、「漢詩のきまりに関すること（形式、押韻、対句など）」「用字法・句法に関すること」「詩に描かれた情景や心情」を A 3 の白紙 3 枚にまとめる。	読む能力① 知識・理解①	記述の点検、記述の確認
3	3 ・ 4	・ 詩についてまとめたことを、グループごとに発表する。 ・ 発表グループと聞き手の生徒とで、詩についての質疑応答をする。 ・ 全グループの発表終了後、それぞれの詩に表現された内容を表すコピーを一文で考え、ノートに書く。また、なぜそのようなコピーにしたのか、その理由もノートにまとめる。〈個人〉	関心・意欲・態度①	記述の分析

7 本時の指導計画

(1) 本時の目標

- ・詩に描かれた情景や心情を、表現に即して読み味わう。(読む能力)
- ・漢詩を読むことに役立つ訓読のきまりや語句、漢詩のきまりを理解する。(知識・理解)

(2) 本時(第2時)の展開

	学 習 活 動	指導上の留意点	評価規準・評価の方法
導入 5分	前時までの学習内容の復習と本時の目標の理解 ①詩4首を全員で斉読する。 ②教師の説明を聞き、本時の目標とグループ学習の進め方を確認する。	○グループは、第1時で生徒各自があげた「一番気に入った詩」をもとにして、3～4人を目安に教師が編成しておく。	
展開 40分	担当する詩についてのグループ学習 ③自分のグループが担当する詩について、「漢詩のきまりに関すること(形式、押韻、対句など)」「用字法・句法に関すること」を確認し合う。 ④「詩に描かれた情景や心情」を話し合う。 ⑤話し合いの結果を、A3の白紙3枚にまとめる。	○グループに分かれて着席させる。 ○文法書、漢和辞典を使用させる。 ○漢和辞典を使用させる。 ○「詩に描かれた情景や心情」を話し合う際には、どの語句を手がかりとしてそのように考えたのかも確認させる。 ○2枚の用紙には、黒マジックで詩を白文で大きく書かせる。その際、字が小さくならないように、1枚に2句ずつ書かせる。また、赤マジックで「漢詩のきまりに関すること(形式、押韻、対句など)」や、「用字法・句法に関すること」を書き込ませる。 ○もう1枚の用紙には、詩に描かれた情景や心情を簡潔にまとめさせる。その際には、手がかりとした語句も用紙に書かせる。	知識・理解① 「漢詩のきまりに関すること(形式、押韻、対句など)」や、「用字法・句法に関すること」を正しく示している。 (A3の紙への記述の点検及び記述の確認) [努力を要するグループへの指導の手立ての例]: 文法書や漢和辞典で調べさせる。 読む能力① 語句を手がかりにして、詩に描かれた情景や心情を考えている。 (A3の紙への記述の点検及び記述の確認) [努力を要するグループへの指導の手立ての例]: 詩に描かれた情景や心情を考えるにあたり、手がかりになると思う語句をあげさせる。また、その語句を漢和辞典で調べさせる。
まとめ 5分	次時の学習内容の確認 ⑥次時の予告を聞く。	○今回まとめた資料(A3用紙3枚)を使って次時にグループごとに発表を行うことを確認させる。	

8 資料等 (具体例省略)